

「提案!! チームマイナス80%」

麻生 義継 (あそう よしつぐ/株式会社東亜電機工業社代表取締役)

この度は第1回経営者「環境力」大賞に選んでいただき、光栄に思っています。

私は、30年以上環境に関する活動に携わってきました。初期の頃は市民運動の中で活動し、後半は社長として、自社の第2の柱として環境問題を解決することを仕事として選択し活動してきました。弊社は、私の祖父が宇治川電力（現関西電力）の電気技術者から独立し、大正10年に大阪で創業した電機製品製造および電気工事を主業とする会社です。

私が3代目、創業88年になります。というとなんだかとても立派そうな書き方ですが、地域のいち中小企業です。1993年にある展示会に行ったときです。そこで京セラが世界で始めて開発した、家庭用太陽光発電システムに出会ったのです。それを見たとき、私はこれこそ私がやらなければならない仕事だと思いました。先ほど述べたように、私たちは、親子3代、80年に渡って電気というエネルギーを使え、使え、というお手伝いを仕事としてやってきたのです。別にそれが悪いことをやっているなどと考えたこともなく、逆に、社会にとって良い役割を果たしてきたと考えてきました。ところが、そのことが結果として現在のこのエネルギー多消費型の社会を作ることに加担してきたのです。

そんな私たちこそ、この自然エネルギーのソーラー発電システムを世の中に普及させる先頭に立たなければならないと思い、京セラに行き、代理店にするよう要求し、代理店として活動を始めたのです。その頃は、価格も非常に高く、3KWのシステムが800万円もしたものです。当然、一般の

人が簡単に買えるようなものではなく、ポルシェやベンツを買うような人が、環境のことを考えて買うわけでもなく、人と違うことをしたいために設置するというような商品でした。しかし、自然エネルギーというのは技術者としては非常に興味深いもので、太陽光発電から風力発電、水力発電、バイオマスへと展開していきました。

2000年に兵庫県尼崎市の商工会議所の環境部会の委員をしていた関係で、その当時すでに環境先進国として知られていたドイツへ視察に行くことになりました。

そこで、私はドイツの行政、市民団体、大学、環境の専門学校、環境事業をしている会社の経営者の人々と深いディスカッションをすることができました。そしてそこで私が得たことは、彼らが、きちっとした環境に対する理念を持ち、環境の仕事をするためには、行動の結果が良いか、悪いかで判断するのではなく、その活動が理念に沿っているかどうかで良い悪いを判断しているということでした。私は、日本に帰ってすぐに我が社の環境理念を成文化しました。これは10年経つ今でもまったく変わっていません。

環境理念2001

1. 私たちは、この地上に生かされた責任において、過去の先人たちから受け継いだ地球をより良い姿で未来の子供たちに引き渡すため、環境を修復し、環境を保全し、将来に渡って環境に負担をかけない社会を構築するために、ひとりひとりが成すべき事を行い、その能力に応じた

可能なことから行動を起こさなければなりません。

2. わが社は、「日常生活の中で当たり前環境保護を行い、環境を保護できる範囲内で人間の生活を保障する」いわゆる環境と経済が共存する未来社会の構築を目指し企業活動を行い、その成果を通じて社会に貢献します。

私たちの行動がこの理念に沿っているか、沿っていないかを常に社内でチェックしながら環境に関する事業を行ってきました。

しかし、「能力に応じた可能なことから行動を起こして」きたものの、その能力が低い我々だけでは、この現代文明を自然の制約の中に戻し「環境と経済が共存する未来社会を構築」することができず、今まさに目の前に地球の限界が迫ってきてしまいました。

この20世紀文明から21世紀型文明に人類、社会、文明が転換しなければ、我々人類文明が過去の文明のように滅びてしまうであろうまさに「環境革命」の直中に私たちはいます。それには、我々は明治維新のときに、それまで薩摩人や長州人、土佐人だった者が日本人という新しいくくりで西欧と対峙したように、いまや日本人、アメリカ人、中国人などの国を超えて、「地球人」として、この「環境革命」を成功させなければなりません。

さらに、私たちにはもう時間がありません。スピードを思いっきり上げなければ間に合いません。そのスピードを得るには、「企業」が環境問題解決に向けた動きを事業として取り組むしかない

私は思っています。そこには経営者の「環境力」が求められます。それは、環境文明21が、今回経営者の環境力として提案した12項目に挙げられたような明確な「環境理念」を持ち、それに沿った行動であるかないかをきちっとチェックしながら、すばやい行動を起こすことが必要です。

これを忘れて行動を起こしてしまえば、きつとおかしな方向へ進んでしまい、「この地上に生かされた責任において、過去の先人たちから受け継いだ地球をより良い姿で未来の子供たちに引き渡すこと」ができなくなってしまうでしょう。

そこで、私は世界の多くの企業、経営者、に提案します。「チームマイナス80%」。これが目指すのは、単に温暖化ガスを減らすということだけではなく、地球の限界を超えて人類文明が滅亡するのか、21世紀型文明に転換して子孫によりよい社会を残せるのか、を選択する「環境革命」に参加するのかを問うているのです。企業の経営者が「環境力」を持ってこの革命に参加されることを望んでいます。そして、さらに多くの経営者に「環境力」というものを知ってもらい、もっと多くの企業が正しく環境事業に参入されることを切望し、そのためにも私のできることから協力していきたいと思っています。

この度は、本当にありがとうございました。

株式会社 東亜電機工業社 大阪事業所
〒530-0041 大阪市北区天神橋1-4-13
TEL : 06-6354-2950 FAX : 06-6354-2948
HP <http://www.sky-gr.co.jp>